

1 自己評価及び外部評価結果(うみ)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400519		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター いわき大原 1		
所在地	福島県いわき市小名浜大原字内城23-2		
自己評価作成日	平成24年6月12日	評価結果市町村受理日	平成24年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日、食前体操・TV体操を行い機能低下防止に努めている。 ご本人の生活歴等から、出来る事を無理なく行い、やりがいや楽しみのある暮らしが出来る様支援に努めている。 定期的な訪問診療や看護師と24時間連携がとれる医療体制が確立している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 法人は介護関連事業所を全国に展開しており、事業所では法人の蓄積したあらゆるノウハウを活かした事業運営及び介護サービスの実践に努めている。 2. 昨年は震災の影響で職員の異動が多くあったが、現在は職員と利用者のコミュニケーションが良くとれており、利用者は穏やかで安心した生活を楽しんでいる。 3. 事業所では職員の研修会出席や資格取得への支援を行っており、全職員が資質向上に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、理念を唱和し確認している。 理念を玄関・事務所に掲示、共有し実践に努めている。	理念は地域密着型サービスを踏まえたものとなっており、玄関や事務所に掲示し、職員は毎日の引き継ぎ時において理念を唱和し、共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々に挨拶をするなど交流に努めている。 又、回覧板を活用し、活動状況等をお知らせしている。	町内会に加入し、回覧板等によりそれぞれの行事や連絡会に活用している。地区が実施している高齢者対応講習会等にも職員が参加するなど交流がある。近所の方から季節の農作物の差し入れ等もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事参加への働きかけを行い、地域の人々との交流に努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地域包括の職員・地域代表・ご家族代表の方に参加頂き、隔月に実施した。委員からの提案を運営に活かすよう努めた。	運営推進会議は定期的開催され、委員は各分野から広範囲に選任されている。委員からの提言や意見が多く、事業所の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括職員との協力関係構築に努めている。 運営上での質問がある際には市への問い合わせを行っている。	開所当初から行政や地域包括センターとの連携を密にし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に入出りが出来る様、日中は玄関の施錠をしない等、身体拘束をしないケアに努めている。 又、研修を行ったり、日々のケアで話したりと身体拘束についての理解に努めている。 マニュアルはいつでも見られるように保管している。	研修を通して拘束のないケアを全職員が共有して実践している。日中玄関の施錠は無く、職員の見守りで対応している。日々のケアの中でも言葉の拘束には十分注意して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待について学ぶ機会を設けている。又、全職員が注意を払い、虐待を見逃さないよう努めている。 虐待防止マニュアルはいつでも見られるように保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているお客様が3名入居されており、研修を行う等学ぶ機会を設け、日常生活支援に活用出来る様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には必ず読み合わせ、説明を行っている。分からない点が無いか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の聞き取りや電話での連絡・満足度調査等により、要望を伺い、職員へ報告し、反映出来る様努めている。	法人が行う「家族アンケート」や年2回開かれる「家族会議」さらに面会の機会を通して家族の意見の把握に努めている。把握した意見等については「業務ミーティング」や「サービス会議」で検討され運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映出来る様努めている。	管理者・ユニット長と職員の意見交換は常に実施しており、職員間の融和も図られている。職員の意見は「業務ミーティング」等で検討され、運営に反映させる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況の把握に努め、やりがいの持てる職場環境を提供出来る様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、研修を行っている。 外部研修の案内を事務所に掲示し、参加希望者には勤務表を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や地域で行われる研修参加を通じて、同業者との交流・サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の要望や不安に耳を傾け、ご本人が満足と安心を得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や困りごとに耳を傾け、信頼関係が構築出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当していたCMやご家族から情報を収集し、支援を見極め、出来る事の維持・向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る力を発揮できる環境を作り、過剰な介護とならないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時もしくは電話等で状況を伝え、情報を共有し、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、自宅や親戚宅に行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	以前の職場の同僚や友人が訪れており、この関係が長く続けられるよう支援している。定期的な美容師の訪問もあり、利用者との新しい馴染みの関係を築いている。また、家族と共になじみの店等に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に出来るレクリエーションを通して、利用者同士が関わり、孤立しない環境作りに努めている。リビングで楽しく交流が図れる様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困り事などにはいつでも相談に応じる事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情等から一人ひとりの思いを汲み取り、希望に添った支援が出来る様、努めている。又、ご家族より情報収集したり、センター方式を活用したりし本人本位の支援に努めている。	七夕の短冊などに望みや思いを書いてもらったり、センター方式を活用し、日常のケアの中で会話やしぐさ等から意向の把握に努めている。思いを表せない利用者に対しては家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりやご家族からの情報により、馴染みの暮らし、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝・夕の申し送り等により、心身状態の把握、情報共有に努めている。 できる事を無理なく続けて頂けるよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様・ご家族の要望を伺い、職員と話し合い、介護計画書を作成している。 期間等により見直し・作成を行っている。	利用者、家族等の意見を踏まえ、関係者が話し合い利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、個別記録等をもとにケース検討会議を行い、定期的に介護計画の見直しをしている。利用者の状態の変化があった場合には随時計画の変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、介護記録や管理日誌に記録し職員間での情報共有・介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスで話し合い、ご本人やご家族のニーズに応じた支援が出来る様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方々に相談する等、地域資源を把握し、楽しみのある生活をお送り頂ける様支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療や訪問看護との連携により適切な医療が受けられるよう支援している。又、ご家族支援により、ご本人・ご家族の希望する医療機関に受診している。	かかりつけ医の受診は家族が同行することを基本としているが場合によっては職員も同行することがある。また、協力医療機関から月2回の訪問診療があり利用者は適切な医療を受けられる環境となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回の訪問看護を受けている。日々の体調観察から、変化に気づき訪問看護師に連絡を取る等、適切な受診や看護が受けられるよう支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様が入院した際は、ご家族と共に説明を受け、入院中は連絡を取り、病状を把握し、早期に退院出来る様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応にかかる指針」をご本人・ご家族へ説明し、同意の下支援に努めている。又、職員間でも同じ指針でケアしている。	「重度化した場合の対応指針」をご本人・ご家族へ説明し、同意のもと支援に努めている。重度化した場合の対応については研修会を重ね全職員が情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けた職員が受講できなかった職員にミーティング等で勉強会を行い、実践力を身に付けられる様取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下避難訓練を行った。又、防災委員会を設置し様々な想定の下避難訓練を行っている。 地域の方々からの協力が得られる体制作りに努めたい。	消防署立会いの訓練は1度実施している。事業所独自で抜き打ちでの「通報訓練」「職員伝達訓練」等を実施しているが避難訓練の回数が少ない。災害時の食料品等は備えている。	いろいろな災害を想定し、全職員が利用者を適切に誘導できるように数多く避難訓練を実施されることが望ましい。さらに災害時には近隣住民の協力を得られるよう働き掛けてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを心がけ、職員間で注意し合っている。 特に排泄に関してはプライバシーに配慮している。	利用者の人格を尊重し、利用者それぞれにあった言葉かけに努めている。職員同士も常に言葉の拘束等を注意しあい、やさしく丁寧な言葉使いに努めている。排泄や入浴のリードには耳元で小声で話しかけるなど特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聴き、その方らしい生活が出来る様働きかけている。 職員も希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに配慮し、ご本人の希望に添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	概ね2ヶ月に1回の訪問理容による散髪を支援している。 ご本人・ご家族の希望を聴きその方らしいおしゃれが出来る様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下準備・配下膳・後片付け等、ご本人が出来ることを職員と一緒にやっている。 季節食や行事食を取り入れ楽しい食事が出る様努めている。	献立は利用者の希望を聞きながら職員が行ない、食材は業者から配達してもらっている。調理は事業所で行っており、調理や片付けは利用者も一緒に行なっている。近隣からの食材の提供もあり季節感のある食事となっている。行事の際には特別料理もあり利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量を把握し、栄養バランス・水分の確保に努めている。又、ご本人の状態に応じ刻みやミキサー食で提供している。 持病のある方については、医師の指導の下、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じ、口腔ケアを支援し、清潔保持に努めている。 毎日、食前体操を行い機能維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握し、便意・尿意の無い方には、誘導によりトイレでの排泄を支援している。	利用者毎の「排泄チェック表」を活用し、トイレでの排泄を基本に支援しており、適切な誘導により紙パンツやパットの使用軽減に努めている。便秘等に対応した食事提供により改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮して献立を工夫している。毎日、TV体操を行う等、運動を働きかけ便秘予防に努めている。便秘がちな方には、医師と相談し下剤による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に配慮し週2・3回、希望する時間に入浴して頂けるよう支援している。	日中は自由に入浴できる体制をとっている。入浴拒否者には担当者や時間を変え気分転換を図りながら週3回以上の入浴を目指している。ゆず・菖蒲などの季節風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室にて休まれている。日中はレクリエーションを提供する等、活動的に過ごして頂き、夜間安眠出来る様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、職員が薬の効果等を理解出来る様工夫している。処方の変更となった際は、日誌等で全スタッフが把握し、症状の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・後片付け、洗濯物をたたむ等、一人ひとりの力を活かした役割を持ち生活して頂けるよう支援している。又、嗜好に応じたレクリエーション・季節の行事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気に応じ、外気浴・散歩を支援している。バスを使用し、遠足に行った。又、ご家族の協力により、外出している。	毎年事業所行事のバス旅行で花見を楽しんでいる。事業所からは公園や遊び場が遠く、近くの神社も急階段があるため、近隣のみでの散歩となっているが、好天時には散歩を日課としている。また、野菜作りやベランダでの日光浴も実施している。家族の協力を得て外出を楽しんでいる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして事務所で預かっている。 お小遣い金は、毎月明細を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族にはいつでも電話できる事を伝え、希望時には電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の作品を飾ったり、季節の貼り絵を飾ったりしている。 居室・共用空間の清潔と温度・湿度調節に努めている。 又、花壇には職員と一緒に季節の植物を植え、手入れをしている。	共有空間には段差のない畳コーナーもあり、フロアの掃出し窓からベランダにも自由に出られる。利用者は思い思いの場所で寛いでいる。塗り絵や書道等の利用者作品も展示され、明るく穏やかな雰囲気的空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室は気軽に利用出来る様、物を置かない等の工夫をしている。 気の合うご利用者同士で会話出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの家具・寝具等を持ち込んで頂いている。 位牌をお持ちの方もおり、その人らしく居室で過ごせる様配慮している。	ベット利用者が多いが希望により布団利用にも対応している。押入れは備え付けとなっており、空調も完備されている。利用者は小箆箆・テレビ・仏壇などを持ち込み、自宅と変わらないゆったりとした生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ等には手摺が設置されており、安全に移動等出来る環境や分かりやすく表示する等工夫している。 又、事故防止に留意した環境整備に努めている。		